



札幌市立中央幼稚園

研究通信

No. 4

中央幼稚園では、札幌市の研究実践園として教育課題に応じた実践研究に取り組み、成果を保護者の方をはじめ、市内の幼稚園、保育園、小学校等に発信しています。

今回は、年中、年少の遊びの事例検討を通して分かったことを一部紹介します。御一読頂き、園や学校、家庭でのお子さんとの関わりのヒントにいただけたら幸いです。よろしくお願いします。

本園の研究テーマ

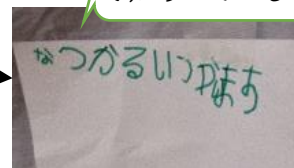
「心動かされる体験を通して、
言葉のキャッチボールを楽しむ幼児を育てる」



<年中「お城、取っておきたい！」～お姫様、プリンセスごっこ～の事例から>



お城ごっこで遊ぶ女兒二人。片付けの時間、次の日につながるようにと思
い入れがあるお城の門の部分のみを教師は残すことにした。明日も使うことを文字
で知らせている



翌日、登園するとすぐにお城作りをする女兒たち。「何をしているの？」と仲間も増え、
お城が完成するとドレスや冠をつけ、ステッキを作ったり、踊ったりして遊ぶ。「お城に屋根つきたいね」「それい
いね！」「お姫様はやっぱりピンクだよ」とピンク色のお城と子どもたち。

お城にピンクの屋根を設置！

その後「犬をやりたい」とピンクの耳をつけた仲間が増えると、「じゃあ、
お城のペットってことね！」「犬がしゃべれるようになった」などイメージ
の変化を教師や仲間と伝え合ったり、散歩したりなりきって遊ぶ姿が見ら
れた。



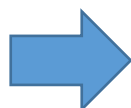
検証1

※より言葉のキャッチボールを楽しむための援助とは？

<前回の年中事例検討で捉えたこと>

イメージの共有化

- ・同じようなイメージで遊び出したり、やりとりしたりできるよう、イメージを可視化し、共有しやすくすることも有効



<この事例から…>

イメージを共有しやすい小道具（ピンク色、お城の屋根、ドレスなど）があることで、子どもたちの心が一つに!! **ピンク**をキーワードに言葉が引き出され、やりとりが促されていた。



検証2

※より心が動く教師の援助や環境の工夫とは？

<昨年度までに捉えたこと>

遊びの中で自分を出せるようにする

- ・その幼児のつぶやきをひろって、遊びに生かす言葉掛けが有効



<この事例から…>

教師が遊びに入り込むことで、より幼児の心の動きが見える、感じる、聞こえるようになる。幼児の思いを実現させていくことで、幼児が遊びの中で自分らしさを発揮する姿につながっていった。



<昨年度までに捉えたこと>

じっくり！たっぷり！～互いに意識できる場～

・木の下にテーブルや椅子を用意し、少人数の落ち着いた雰囲気の中で観察などをして過ごせる場をつくりました。ゆったりした場だからこそ、互いに友達を意識しやすく、心を通わせたり、観察したりしながら継続して遊ぶ姿につながりました。



<この事例から…>

屋根や入口のある場は子どもに安心感を与える。囲まれた空間は、友達に目が向きやすく、意識しながら遊ぶ姿につながった。



<年少「ことりフードコート」の事例から>

これまで年中長のお店屋さんにお客さんとして行くことが多かった年少ことりのくみ。

2 学期から、遊戯室のステージ側の壁には横並びにことりのくみの遊びの拠点がいくつか常設され、その中でラーメン屋さんやレストラン、ケーキ屋さんやマクドナルド等々、様々なお店が次々に開店していった。保育室では、じっくり遊びたい子、新しいことを始めるのに慎重な子どもたちがジュース屋さんやお団子屋さんなどを楽しむ姿が見られていた。



遊戯室のお店では、お客さんが来るのを待つだけでなく、出前で品物を自分たちから届けたり、お店の前にテーブルクロスを掛けたテーブルを置き、イートインスペースを設けたり、紙袋を用意しテイクアウトが出来るようにしたことで、学年を越えて沢山のお客さんが来店。「お部屋の中にもお店が開店しているよ～！」の教師や子ども同士の呼び込みにより、保育室にもお客さんがどんどん来店。お店屋さんごっこということもあり、必然的にやりとりをしなければならないことりのくみの子どもたちは「いらっしゃいませ」「今焼きますから待って下さい」など、お店屋さんになりきって子ども同士で言葉のやりとりをする姿につながった。



検証1 ※保育室の中や近くに遊びの拠点を つくることで

<今年度新たに捉えたこと>

お部屋の近くだから安心！～横一列でじっくり遊べる環境～

安心感のある年少保育室の中や近くに拠点を作ったことで、慎重な子や不安の強い子も含め、安心して他学年の子どもたちとやりとりできる姿につながった。また、横並びという配置にすることで、仲間が側にいる安心感をもちながら、周りの刺激に気を取られず遊びにじっくり集中できたのではないかと。



<昨年度までに捉えたこと>

みんなの目に入る場所でかまくら作り

・1月からはたっぷりの雪が積もるグラウンド。かまくら作りは、園庭との出入口付近のみんなの目に入る場所に！他学年の幼児が見て憧れの気持ちをもったり、作り方のコツを知らせる、招待するなど自然な伝え合いに繋がったりします。



<この事例から…>

ステージ側の壁に横並びに拠点を作ったことで、どの学年、教師からも様子が見え、学年を越えて遊びが広がり、やりとりする姿につながった。



検証2 ※より言葉のキャッチボールを楽しめる教師の援助

<今年度新たに捉えたこと>

必然的にやり取りが生まれる遊びでつながる！（お店屋さんごっこ等）

どの子も日常の中で経験したことのあるお店屋さんという遊びだったことで、大きな経験の差がなく学年を越えて遊びが広がる姿に繋がった。また、「いらっしゃいませ。どれにしますか？」など、いくつかのパターンを教師が見せたり、一緒にやることで、安心してやり取りする姿につながった。

